

序 『京都の仏教史』の編纂にあたって ————— 一

● 序章 仏教の誕生と拡張 ————— 九

シヤカムニの仏法開眼／阿含経と仏教分裂／
仏法の東遷

● 第一章 仏教の渡来 ————— 一九

第一節 新しい宗教 ————— 二〇

五五二年説と五三八年説／公伝以前の渡来説／
排仏派と崇仏派の確執／革新派の蘇我、保守派の物部／
仏法、はじめて興る

第二節 飛鳥の仏教 ————— 二九

わが国最初の寺・法興寺／聖徳太子と仏教／
飛鳥大仏／飛鳥文化／

十七条憲法の制定／太子の国際交流／
国家仏教への道／クーデター、大化の改新／
宮廷仏教への道

第三節 大仏開眼 ————— 四四

南都六宗の成立／大仏開眼／

勸進に努力した異端の僧行基／神仏習合／
鑑真和上の来朝／道鏡の登場

● 第二章 平安の仏教 ————— 五九

第一節 最澄と空海 ————— 六〇

桓武天皇の平安京遷都／墮落僧を切り人材登用／
最澄と空海／最澄のスポンサー桓武天皇／

天台宗の開宗／最澄の遺言／
超人空海の登場／空海入唐／

空海の帰朝／私学・綜芸種智院開設／
密教とは／最澄と空海の交友と絶交／
二人の後継者

第二節 浄土の世界 ————— 八二

天台の浄土／念仏聖空也／
慶滋保胤の『日本往生極楽記』／源信の『往生要集』／
『往生要集』の影響／隠遁者の念仏別所／
聖衆来迎への渴望

第三節 平安貴族の信仰 ————— 九七

仏教の貴族化／宇治平等院の世界／

仏教界の俗化／荒れる都／
僧兵の横行、仏教界の墮落／
末法到来

● 第三章 庶民仏教への道 ————— 一一二

第一節 新しい求道者（鎌倉新仏教・旧仏教） ————— 一一三
法然の開宗／絶対他力の親鸞／
栄西と禅／道元と純粹禅／
日蓮と比叡山・京畿／一遍と京都／
旧仏教界の名僧たち

第二節 仏教の大衆化 ————— 一三五

旧仏教と民間信仰の普及／本願寺の興隆／
浄土宗の流れ／五山禅と大徳寺・妙心寺／
時宗の展開と中世文化／法華宗と町衆

第三節 宗教の闘い ————— 一六〇

法華一揆と山科本願寺／天文法華の乱／
叡山焼亡／戦国覇者と仏教

● 第四章 近世京都の仏教 ————— 一七五

第一節 仏教寺院の回復 ————— 一七六

丸腰の寺院／本願寺の京都還往／
徳川三代と知恩院／空前の建設ブームと社寺の復興／
黒衣の宰相／天海版大藏経開版／
隠元の黄檗宗／江戸期の名僧たち

第二節 幕府の仏教統制 ————— 一九三

寺院法度／袈裟の色まで規制／
本末制度の確立と寺院支配／檀家制度の確立／
檀家の義務／身勝手な寺の掟／
大徳寺・妙心寺事件／不受不施派の弾圧／
不受不施派の禁教／真宗宗名論争／
江戸中後期の行政指導

第三節 門前のにぎわい ————— 二二五

寺内町の成立／現代の「寺内町」／
本山都市の遊山と名所尽くし／開帳と巡礼／
うかれたおかげ参り

● 第五章 近代化と仏教 ————— 二三五

第一節 廃仏毀釈 ————— 二二六

神仏分離の潮流／神仏分離の実情／
廃仏毀釈のさまたま／上知令の打撃

第二節 仏教界の再編 — 二三九

教団仏教の再編／混乱からの脱却と寺観の整備／
仏教の近代的覚醒／社会的活動への参加／

戦時体制と仏教界

第三節 新しい仏教の波 — 二六二

文化観光都市京都と戦後の仏教界／新時代到来と新しい宗教の勃興

参考文献 — 二七四